概　要　報　告

実施期日	令和７年８月１日(金)
部　会　名	小学校　外国語活動・外国語部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『外国語を使ったやり取りを通して、伝わる喜びを味わう授業づくり』

提案概要

当該学校の小学校３年生を対象に外国語活動の授業を実践した。外国語を指導するに際し２点不安があった。①外国語の授業は英語サポーターにまかせていたため、Ｔ１で授業をするのは初めてであること。②自分は１年生の担任なので、他のクラスを借りること。この２点を考慮し、授業をするにあたり担任に実態を聞いた。同じメンバーで学年が上がってきているので、クラスの児童の人間関係が固定化し、新たな繋がりが生まれにくい。外国語では、単語の復唱や英語の歌を歌ったり絵本を読み聞かせたりの活動が多く、友だちとのやりとりの実体験が乏しい。これらから、「競争から共生」と、言語を用いて課題を解決する授業づくりを目指した。

児童のアンケートから、英語で友だちと会話の楽しさを感じていることが分かったが、会話することへの難しさを感じている児童も少なくないことも分かった。「英語を使って友だちとコミュニケーションをはかる楽しさを味わえる授業づくり。固定化された人間関係を少しでも広げ、様々な人と主体的にコミュニケーションをはかる素地を養っていく」という方向性で授業づくりに取り組んだ。

『Let’s try』Unit７「This is for you.」という単元の『カードを送ろう』(色・形・気持ちを英語で伝える)」という活動へ向け、アウトプットへの活動の工夫として、①伝えたくなる必然性のある場面づくりによる、主体的なコミュニケーションの促進。②言語やグループ活動による、様々な友だちと英語を使って気持ちを伝え合う体験を積む。という２つを意識して授業づくりをした。

まず、色の言い方の復習として、お店屋さんとお客さんに分かれて欲しい色のクレヨンを集めた。次に、クレヨンを使って、窓ガラスに絵を描き、ワクワクフラワーロードを作った。児童からは「英語が覚えられて楽しかった。」という感想があった。教師からは「絵を描くことが楽しくて、英語の使用時間が少なかった。友だちと会話が苦手な子は色をあつめられなかった。」という課題が出てきた。

前回の反省を生かし、次の授業では思いやりババ抜きという活動をした。チームで助け合い、早くあがれるよう、人の欲しいカードを聞き、協力し取り組める工夫をした。

最後は、カードを作成する活動を行った。練習してきた言語材料を使って、友だちに欲しいものを伝えてやり取りをした。児童からは、「友だちといっぱい英語で話せて嬉しかった。友だちとの関係が良くなった。欲しいものが相手に伝わって良かった。」という感想があった。また、担任の先生からは、「授業後も自然に英語でじゃんけんしていた。街で外国語の方に声をかけていた。」という報告があった。

児童の変容と成果は、英語を使うことへの前向きな姿勢の増加と伝わった喜びを得た体験による自信の芽生えが見られた。授業後のアンケートでは、会話が楽しいと答える児童が増加したが、会話が難しいと答える児童が授業前と同様にいたことから、発音や語彙への自信不足などの会話への不安を取り除くことができなかったことが課題であると考えた。より多くの言語活動の繰り返しや教師の支援、交流相手を固定化しないグループ活動の設定の工夫が必要であった。

改善の方向性としては、間違えても大丈夫という空間の共有、教師やALTがモデルとなり楽しいやりとりを増やす、多様な児童の関わりの促進、成功体験を即時に認め、声かけをする等が考えられる。

まとめとして、伝え合う必然性のある場が、児童の学びを主体的にする。伝える喜び、伝わる楽しさを積み重ねる授業づくりが学習への前向きな姿勢に繋がると考える。

質疑応答

Q.窓ガラスにクレヨンで描く活動が図工のようになってしまったとのことだが、「塗るときに色を英語で言おうね」などの声掛けの工夫が必要だったと考えますか。

A.絵を描く時に関してはこちらから指示を出さなかったので、声かけをすれば英語の使用時間も増えていったのかなと考える。
Q.子どもの実態としては、その指示は難しくないと思いますか。
A.これまでに歌などで色の表現に触れているので難しくないと思う。
Q.３年生から外国語活動に楽しく取り組めていて、高学年に繋がると思った。担任ではなく他のクラスに入っての授業は難しかったと思うが、工夫したことや、英語サポーターはどのように関わっていたのかを教えてほしい。
A.以前から子どもたちとは少し関わりがあった。
また、普段から、色々な先生が入って来ても受け入れてくれるクラスになるような、担任の学級経営の工夫があった。英語サポーターの方には、新しい単語やフレーズは歌などを通してシャワーのように浴びせてもらっていた。

協議の柱及び協議概要

協議の柱「英語で伝え合いたいと思える授業づくりを目指して」

授業のアイデア、課題設定、評価、自分が児童・生徒なら、他教科とのつながりやアンケートなどを授業の中でどのように使えるのか、という視点で小・中学校の先生が同じグループとなり、授業づくりについて話し合った。「思いを伝えているのか、練習のために言わせているのか悩む。」「小・中連携について、どのように取り組んでいけば良いのか分からない。」「小、中でリモートをする。」「アンケートビンゴ。」「推しを伝える。」「ランダムに選んだ人について紹介する。」「ゴーストゲーム（決められたゴーストしか答えない人を探す)。」「お世話になっている他学年に手紙を書く。」「ALTに道案内をする。」「英語での調理実習。」「ワールドツアー（行きたい国の紹介)。」など、悩みを共有したり、すぐにでも実践をしたくなるような活動例を紹介し合ったりした。

まとめ概要

小学校については中学校への準備期間ではなく、したい・言いたいことを学ぶことができるよう、外国語を使って何をするかが大切である。英語を使って会話ができた、伝わって嬉しいと感じることのできる、伝える意味のある課題の設定が必要である。教師の役割として、普段の子どもの様子の理解や日常感と非日常感の場づくり、また、学びの相似形（先生が学習者といて共に学んでいく・楽しんでいく）などを意識し、指導・支援していくことが必要である。児童が英語を学ぶことによって自分の世界が広がると感じられるよう、自ら考えて主体的に取り組むことのできる授業づくりと、関わる教師の役割が大切だと感じている。